第15回　高知県史編さん編集委員会　議事概要

日時：令和８年６月４日（木）10：00～12：30
会場：高知県立高知城歴史博物館　ホール

出席委員：藤井委員長、羽賀副委員長、渡部委員、小幡委員、大門委員、松田委員、
川島委員、岡本委員、三浦委員
（リモート出席）
井上委員、津野委員、三宅委員、鋤柄委員、常光委員、邑田委員
事務局　：濵田課長、橋本補佐、紀ノ國チーフ、目良主幹、松本主幹、大野主査、
村越主事、深谷主事、岩山主事

１．開会
・新任の委員及び事務局職員の紹介

２．挨拶
藤井委員長より開会挨拶

３．報告事項
（１）前回までの編集委員会のご意見と対応について
資料１について事務局より説明。
・土佐清水市、自治体史編さんを進めている大月町、四万十市などで資料所在調査を開始している。
・近世部会・渡部部会長とともに、神社庁や仏教会に協力を依頼している。神社庁からは、神社庁報に記事を載せてはどうかという提案をいただいた。仏教会については、事務局の会議へ訪問し、６月下旬には理事会総会へお願いに行く。どちらも非常に好意的な意見、前向きな意見をいただいたところである。引き続き、協力を依頼していきたい。
（渡部委員）
・神社庁は全神社に伝えるという方法があるため、そこで伝えるそうである。
・個別のお寺からその場で「うちの資料を調べてもらいたい」「うちにも資料がある」いう発言があり、今まで出てこなかった宗教関係資料は割と把握できるのではないか。
・キリスト教や天理教などの宗教関係ものをどうするかということが課題になると思う。
→質疑応答なし

（２）高知県史の掲載内容に関する要望について

資料２について事務局より説明。

・前回の編さん委員会の委員からご意見のあった高校教員への見学会・研修会について、学校長会議や学校訪問を行い、協力をお願いしているところである。前向きに検討していただいたところもあり、順次日程整い次第、できるところから進めていく。

→質疑応答なし

（３）各専門部会の活動状況について

【古代・中世部会】資料３-１について井上委員より説明。

・令和 10 年度の刊行に向けて、スピードを挙げ、第２刊、第３刊の資料編の準備も抜けがないように対応していく。委員のほか、部会長、副部会長、事務局で現状の課題を確認しつつ、全体に諮っていくというようなことを進めている。

・５月の部会では、今後の作業の進め方や資料調査のあり方、第二期計画について、議論を行った。特に、少しずつ仕上がりつつある第１刊のテキスト原稿の校正を、用意されているドライブを活用して、どれだけ効率よくできるかということを詰めている。

・今年度の夏から秋にかけて、「香宗我部家伝証文」の継続調査を考えている。高知の中世史を考えるうえで、非常に重要かつ貴重な資料であるため、県史の機会にどこかで県民に見ていただけるような機会ができたらよいのではないかということで考えている。

・第１刊に収載する古代資料については、おおよそ全件のテキストデータが揃い、その校正作業を事務局に進めてもらっている。中世資料については、テキストデータで基礎情報になっていないものがかなりあるため、そこを中心に作業を進めている。

・資料編３に収録予定の長宗我部関係の資料については、既刊の資料集から抽出をするという作業を、津野副部会長の指示のもと行っている。

・東京大学史料編纂所では受託で、旧『高知県史』に収載されている資料に所在などの情報やテキストの準備状況を付して表で整備し、委員や事務局と共有できるように作業を進めている。現在、2,500 点ほど網羅しているが、重複などが発生しているため、再確認すると、おそらく約 2,000 点が残る。これが、資料編１に入り、700 ページぐらいではないかと積算している。古代史関係が 150 ページ、その他 100 ページほどと考えると、上限である 1,000 ページにいきつつあるという予測を持ちながら、委員と情報共有を進めている。

・資料編１に収載予定の 2,000 点のうち、テキスト化しているのは 500 点ほど。古代史は 100％だが、中世史はまだ 25％であり、現状では、編纂所で雇用しているスタッフの校正に留まっている。委員は原本資料のデータと引き合わせ、説明註などを施す作業に移りつつある。月１回程度のミーティングで進行状況や問題、課題の共有などを行って進めていく。

・今後は、継続して調査を進めていくとともに、統合表を充実させて、資料編に関連する

情報を全体として進めていくということを考えている。

（津野委員）

・資料編「古代・中世１」がいよいよ令和 10 年度の間に迫っており、目録と校正作業を進めなくてはいけなくなっている。
・並行して、資料編「古代・中世３」の調査で、長宗我部関係資料を常に意識しながら、作業を進めていきたい。
・「香宗我部家伝証文」の話があったが、非常に貴重な文書であるため、県民に見ていただくような機会があればと思う。

【近世部会】資料３-２について渡部委員より説明。

・３月には、甲浦、野根村の惣年寄を勤めていた北川家伝来の古文書調査を継続して実施。この中には、近世資料だけではなく、近代資料もあり、悉皆調査を行っている。
・「北川家文書」の一部は旧『高知県史』の近世資料に引用されているが、多くはまだ未公開のもの。調査を進めると、藩士巡検の問題、新規の財政の問題、阿波との国境関係などさまざまな資料が出てきている。また、宗教や文化活動の資料があり、かなり万能資料という感じがしている。
・調査は、部会委員のほか、県内の学芸員、県外の院生、高知大学生などのチームを組み、年２回ほど調査を実施。今年度内に「北川家文書」を全部調査し、グループ化を行い、選定を検討し始める。
・５月の部会では、資料編「近世１」について、目次、凡例、口絵などを決め、入稿するための準備を行った。スケジュール通り進んでいるが、調整しなくてはならないものが入稿後も出てくるため、印刷業者と協議をし、初稿を待ちたい。
・校正作業は、到底近世部会と担当者だけではできないため、県史編さん活用課が総がかりであたってもらいたい。そうして、全体の作業のボリュームを共有してもらうと、次の本が出る作業についても、事務局と部会等で作業共有ができると思う。ぜひそういう形でやっていただきたい。
・並行して、２冊目の構成と掲載できる資料について、次は文化、宗教、思想という形で検討が始まっている。
・今後は、初稿が示されるころに向けて８月に部会を行い、９月に調査会を実施して「北川家文書」の収集、完成に向けて動きたい。
・発刊に向けて、いよいよ進め始めると、色々と検討すべきことがあり、何とか年度内に発刊するように、計画通り進めていこうと思う。

【近代部会】資料３-３について羽賀副委員長より説明。

・４月の部会では、新たな事務局体制の紹介や、資料編２の編集の進め方について議論を行った。

・９月の現状報告会では、掲載資料の第一次候補案を提示する。

・院生等にお願いしている翻刻を、どのように各委員に戻すかという問題をこれから調整していきたい。

・撮影については、事務局を中心に鋭意進めている。撮影したデータや高知城歴史博物館など他機関から提供いただいたものがクラウドに登録されてきている。

・近代部会に割り当てられているクラウドの容量が残り１割になっており、事務局と相談して、容量を増やしてもらうという話をしている。

・撮影は今後も継続して行う。「堀見家資料」は、これまで撮影していた政治関係の資料のほか、移民関係や行政関係の資料がまだある。「五藤家文書」については、中々ハードルが高いということで、現地へ行って見せていただくということになると思うが、特に地主関係、土地関係の資料はリストアップして調査に行く。

・先ほど、近世部会の資料調査が随分進んでいるという話を聞いたが、「北川家文書」についても近代資料が相当あるということで、近代部会として何ができるかわからないが、現地調査したいと考えている。

・今後は７月に部会を行い、９月には自由民権記念館、オーテピアで合同調査を行う。また、部会及び現状報告会を９月中に実施し、ここが分岐点になるため、丁寧な情報報告会を行い、第一次候補案を出せるようにしたい。

（藤井委員長）

・それぞれの部会が順調に進められているようだが、クラウドの問題はどのような対応になりそうか。

⇒（事務局）

・近代部会の容量がいっぱいになっているのは事実。近代のフォルダをもう１つ増やすことが一番の解決方法だと思う。

⇒（藤井委員長）

・部会との連絡を密にして対応していただけるとありがたい。

【現代部会】資料３-４について大門委員より説明。

・資料編の第１刊と並行して第２刊、第３刊の見通しを持とうと部会に諮った。第１刊は重点主義で収録するという方針を立てて進めてきたが、第２刊、第３刊については、網羅主義的に資料編を作り、後々様々な分野で活用可能なようにという方針を立てた。

・資料編の構成は、各刊、第一部が高知県全体の歴史、第二部が地域の歴史としており、第１刊は県西部の幡多地区を中心にして、県西部の歴史を編さんする方向性をとっている。現在、目次の整備、担当が決まり、各自の分量分担がおおよそ確定してきている。

８月末の部会までに、各自の割当頁に対する２倍の資料を積み上げ、第１刊の資料編の編さんに向かっていく予定を立てている。

・その他の第二部については、第２刊は県東部、第３刊は県中央部という形で資料編を考えており、現在、第２刊の県東部の調査を重ねている。第２刊、第３刊について検討すべき目次については、正副部会長でピックアップしており、夏の部会以降、精査していくということになるかと思う。

・昨年の 12 月以来、人権あるいは個人情報等についての協議を部会で行っている。３月の部会では、このことについて配慮を進めながら編さんを行うガイドラインのようなものがほしいという意見や、各担当者が事例を出してどのような形であればクリアしていくのかなどを話し合った。６月の部会からは、具体的な資料をテーマに即して出して協議する形で進めていくことにしている。

・３月の合同調査では、現代で初めて漁協と商工会の系統的な資料を発掘することができ、第２刊の第二部の基幹的な資料になるだろうと考えている。また、室戸で聞き取り調査を実施した際の調査対象者は、県東部での移動の事例とも関わっている印象的な方であり、第２刊に聞き取りの成果を掲載するということを考えていきたい。

・第１期の総括にあるように、現代部会は今までの蓄積が少なかったことも含めて、おおよそ順調に進んでいるのではないかと考えている。

【考古部会】資料３-５に沿って、鋤柄委員より説明。

・資料編１にて、事実報告前に掲載する概説部分のたたき台を夏までに作成する予定。

・専門用語が出てくるのは致し方無いかと思うが、多くの県民の方に読んでいただく部分として、考古の資料編では「総括」部分に遺跡の歴史的な高知における意味というものを文章化する予定である。このあたりについては、高校の教員に読んでいただくなどの連携を図り、それを踏まえて本編へのいざないができるような試みを考えている。

・第１編の中で１番のポイントとなる刻書土器の科学的な分析について、今後どのように進めていくか、科学者の方々と協議予定。

・情報としての地理環境というものが大事であるが、島田（松本）豊寿氏の非常に大きな業績を改めて取り上げさせていただく形で、このテーマを進めていく。

・資料編の第２刊、第３刊の調査も順番に進めている。守護所推定地関係については古代・中世部会の先生方と連携し、今年度末を目標として基盤情報の整備を目指す。石造品関係については来年度、水中遺跡関係については、関連会議等と共有を図りながら、再来年度以降、具体的な検討に入っていく予定。

（松田委員）

・今年の 10 月に大月町内で、名古屋城の調査研究所の職員の方と合同調査を計画している。名古屋城石の砕石をその場所で取ったということで大月町史に若干記載されているが資料が非常に少ない。現地の状況把握が必要ということで、10 月以降の調査を計

画している。文化財部会、近世部会は特に、新しい資料等があれば教えていただきたい。

【民俗部会】資料３-６について常光委員より説明。

・３月に執筆者会議にて執筆要領を検討し、５月の部会で執筆要領が決定した。その要領に従って、今後、執筆を進めていく予定。
・民話編は、５月に第２次資料選定が終了し、７月から本格的な執筆を開始する。担当の300ページのうち、200ページ分の執筆を９月、残りは年度内に終了する予定。
・民謡編は、３分野の内で最も進んでいおり、そろそろ解説に着手する。懸案であった音源からの楽譜化は終了している。
・地名編は、３章構成で具体的な節の項目も決まっている。６月中に、担当の300ページのうちの50ページを執筆し、８月までに100ページ、９月末までに150ページを完了するという目安で進めている。
・本編の「民俗１」については、「平地」「農村」「山村」「海村」「町と都市」の５章構成を考えているが、具体的な検討はこれからである。前回の部会では、委員から、高知の場合は、川の流域に注目した民俗文化を調査して考えるべきではないかという意見があり、具体的な検討はこれから進めることになっている。
・民俗地図を作成していきたいという考えで、全県下のアンケート調査を実施している。
・発刊はだいぶ先ではあるが、資料編「民俗２」の民具編について、少なくとも10年ほどかけて民具の全体像を把握する必要があるということで、年３回から４回を目途に実施を進めている。
・この11月の合同調査では、物部川流域を考えている。

【文化財部会】資料３-７に沿って、岡本委員より説明。

・４月の部会では、「ときのあかし」の執筆担当者などを検討した。
・史跡の調査について、文化財部会だけでなく、考古部会の委員と一緒に、室戸から甲浦方面のあまり調査が進んでいないところを調査。宝永の南海地震後の崩落地を確認し、多くの土砂、石が堆積していることを確認した。文化財部会としては、こうした調査が大事だということで一緒に調査を進めている。
・文化的景観については、四万十川の文化的景観連絡協議会に、県史に掲載する写真の調査提供の依頼を行い、無形民俗文化財については、担当の委員に所有している資料を提供するなど共同で行っている。
・天然記念物も調査を進めているが、地名の記載方法について、新しい地名で記載すると場所がわかりにくいため、できるだけ旧の地名を使うようにしたらよいのではないかと考えている。

（三浦委員）

・10月から、かるぽーとを会場に、高知市民の大学で15回に渡って、文化財部会の内容

で市民向けの講座を行う予定。そのうちの１回は、刊行の１冊目ということで、近世部会の渡部部会長にお願いしている。

（事務局）

・文化財部会の地質鉱物の調査協力員に高知市民の大学の関係者がおり、令和８年度の下半期の講座をぜひ文化財部会に持ってもらいたいという話を受けて、文化財部会の正副部会長及び部会にご相談し、了解をいただき、全 15 回対応いただくこととなった。

・来年度の上半期もぜひ県史の関係でやっていただきたいという話があり、個別に各部会２名程度ずつ、お願いできればと考えている。

⇒（藤井委員長）

・半期で 15 回は、同じ人に何回か講演してもらわないと無理だと思うが、そうするのか。

⇒（事務局）

・岡本部会長には２回してもらうが、調査協力員の方も含めて１回ずつ講演いただく予定。

・受講者は、500～１千人単位の夏期大学とは異なり、30~50 人程度と想定している。

・県史で対応するのは、現時点では来年度の上半期までである。それが終了した際は、高知市民の大学への県史の内容はいったん終了になる見込み。

⇒（藤井委員長）

・次回はともかく、その後の展開を考えると、全体の企画そのものを検討させてもらわないとかなり無理があると思うので、考えていただきたい。

⇒（小幡委員）

・旅費などのことについて、高知市民の大学と話を詰めてほしい。

・広報もしっかり行わないと、事務局が考える「県史の成果を県民に少しでも広く知ってもらう」ことができず、講師の負担だけが大きくなりかねない。

⇒（藤井委員長）

・県史編さん事業と高知市民の大学の関係や位置づけを次回の編集委員会できちんと示してもらいたい。

⇒（事務局）

・広報の件も含めて、再度、高知市民の大学と確認していく。その内容も踏まえて、委員長、副委員長、各部会長含めて報告し、次回の編集委員会でも説明する。

【自然部会】資料３-８について邑田委員より説明。

・今年度正式に発足した。部会は原部会長、邑田副部会長で構成している。

・内容が非常に多岐にわたるため、調査を進めていただく調査協力員については、ワーキンググループを作らなければならないという話になっており、調整を進めている。

・第１編の生物関連は、各分野の専門の方に集まってもらい、具体的に進んでいる。

・第２編の自然災害については、現場経験者が適任だろうということで、行政から選んでもらう形で進んでいる。

・本編は、A4 版 500 ページが原案。第１編「自然と人」と第２編「自然災害とまちの変遷」とし、第１編は「地質・地形と気候」「植物」「動物」、第２編は「高知の自然災害史」「災害からの復旧・復興」ということになっている。刊行スケジュールについては、令和８年から 13 年にかけて調査執筆を行い、その後２年で校正、刊行ということで了承している。

・４月には生物分野準備会を行い、原案を紹介した。今後、委員その他の調査員等の選定に係る予定。５月の部会では今後の進め方を検討。

・今後は、第１編の担当者会を実施し、生物関連の具体的な方針を決めていき、第２編については、原部会長の主導のもと打合せを行う。

・初年度に調査などを具体的に進めてみて、来年度から本格的に進めるにあたりどのように進めていくかということを協議する全体会議を年明けに行う予定。今年度実施した結果、来年度以降、具体的にどう予算を使って進めるかということを検討したい。

⇒（藤井委員長）

・実際の調査研究のための経費をどのように考えるか、ぜひ、今年度の終わりの段階で事務局とも相談し、確保できるようにお願いしたい。

４．協議事項

（１）人権的な配慮を必要とする事項について

事務局より各部会での協議状況等を説明し、編集委員会として資料４のとおり「人権的な配慮を要する事項及び個人情報等の取扱いに関する方針」を決定。

（２）第５回高知県史編さん委員会の進め方について

資料５について、事務局より説明。

・令和７年度と同様に、部会長からの発表については数を絞って行う。

→委員、了承。

５．閉会

藤井委員長より開会挨拶

以上